

令和4年2月24日

青梅市立今井小学校保護者の皆様

青梅市立今井小学校
校長 神尾 健彦

令和3年度 青梅市立今井小学校 教育実践報告

令和3年度の今井小学校では「学びを止めるな ～新時代の日本型学校教育の構築を目指して～」をスローガンに教育活動を進めてまいりました。昨年度のような大きな休校はなかったものの、いまだ新型コロナウイルスの感染拡大防止を念頭に置いた教育活動が求められた1年でもありました。その中で本校が実践してきたことを本校の教育目標および学校経営方針に沿ってご報告いたします。

○ 教育目標「思いやりのある子」 ～豊かな心の育成～

(1) 挨拶の励行

子供が場や状況に合わせ、すすんで挨拶ができるように取り組んできました。教職員が率先垂範するとともに、授業開始と授業終了の際にしっかり礼で始まり礼で終わることをしてきました。毎朝正門で児童と挨拶を交わしていて、児童が自分から「おはようございます」と言う子供が年度当初の約3倍となりました。児童アンケートの結果でも、90%以上の子供が挨拶に関しては肯定的な回答をしています。課題としては、見守りをしてくださる地域や保護者の方により積極的に挨拶ができるようにしていくことが挙げられます。今後も継続してすすんで明るく挨拶ができるように取り組んでいきます。

(2) いじめの防止

子供が思いやりの気持ちを持ち、自他ともに大切にしようとする心情を育ててきました。道徳でいじめについて考える時間を設定するとともに、日頃の教育活動全般で人権意識を育む指導を行ってきました。いじめの防止としては、年間4回のいじめ調査を実施するとともに日頃から教職員が子供と接する中での気付き、保護者からの情報などからいじめの早期発見に努めました。保護者・子供から26件の訴えがあり、青梅市教育委員会に報告をしました。担任を中心に生活指導主任、管理職で情報を共有し、子供どうしで解決できるもの、保護者の協力を得ながら解決を図るもの、全体指導が必要なものなど組織として判断し早期対応をし、訴えがあったものに関しては現在解決しています。ただ、子供の心の中でのわだかまりや負の感情がすべて解消したとは考えていません。継続的に見守るとともに、スクールカウンセラーを活用した相談体制の強化を行っていきます。

(3) 異学年の集団活動

「なかよし班活動」で一緒に活動をしたり、学校行事の中で異学年の取組を見たりするなかで、自身の役割を自覚したり、高学年へのあこがれをもったりすることができるように取り組んできました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、年度当初の計画どおりには実施することができませんでしたが、方法を工夫しながら内容を変更したり規模を縮小したりしながら実施することができました。90%の子供が行事や活動を通して成長を実感しているというアンケート結果でした。

○ 教育目標「自ら学び考える子」 ～学力の向上～

(1) 基礎・基本の定着

学習した内容を8割以上定着させることを目標に取り組んできました。学校としての取組である「アフタースクール」や青梅市としての取組である「ステップアップクラス」を実施し、基礎・基本の定着を図りました。また、算数では3年生以上で習熟度別指導を行い、定着に時間のかかる子供にも丁寧に指導をしてきました。その結果、東京ベーシックドリルの正答率に向上が見られます。児童アンケートでも、86%の子供が自身の学力の向上を肯定的にとらえています。一方、教職員は60%が変化の兆しはあるが不十分な部分があるとしています。中学校での学びへの接続を意識し、必要な学習内容の定着のための取組を推進していきます。

(2) ICTの活用

ICT機器を学習用具として使い、学習したことを整理したり深めたりすることができるように取り組んできました。5月に「リモート学習チャレンジ」を実施し、休校や学級閉鎖などの不測の事態にも対応し「学びを止めない」ように準備をしてきました。教職員は日常的に一人1台の端末を活用した学習活動を行い、リモート学習にも対応することができるようになりました。児童アンケートでも95%の子供が活用に対して肯定的な回答をしています。1年目の取組としては、十分に成果があったといえるでしょう。今後も、より効果的な活用を模索していきます。

(3) 家庭学習の習慣化

すべての子供が家庭で学習する時間を確保するように取り組んできました。学期はじめに「家庭学習がんばり週間」を設定し、習慣化できるようにしてきました。低学年においてはおおむねできるようになっていますが、高学年になるにつれてしっかり習慣化している子供とそうでない子供に分かれてきているようです。高学年になるにつれて学習内容も高度になり量も増えてきます。「宿題をこなす」だけの家庭学習ではなく、「自ら学ぶ」家庭学習への意識改革が求められてきます。また、高学年での家庭学習の習慣は、中学校での学習に直結してきます。子供が自分で計画し自ら学ぶことのできるよう家庭学習の充実を図っていきます。

○ 教育目標「心身ともに健康な子」 ～健康な体～

(1) 体育的活動の充実

子供が自分の体力を向上させようと、運動に親しみ、外遊びをして体を動かす習慣が身に付くように取り組んできました。「なわとび週間」では、全校の子供が校庭でなわとびに取り組み、なわとび週間が終わっても、練習する姿が見られました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「マラソン週間」が中止となってしまったのは残念でしたが、持久走は各学級で取り組むことができました。体力調査の結果としては、持久力や握力、俊敏性が、全国平均よりも低い傾向があります。日常的な活動の中で向上を図ります。体育の学習では、授業の工夫を通して体育があまり得意でなく好きではない子供も楽しみながら学習に取り組むことができている。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大防止

手洗い、マスクの着用、給食時の黙食など新しい生活様式の定着を図り、今井小ガイドラインに

沿った取り組みをしてきました。教職員も子供も意識を高くもち実践することができました。感染拡大防止のために、リモートでの学習や就学時保護者会の導入、行事の実施方法の変更や延期の措置等、臨機応変に対応してきました。

(3) 生活習慣の見直し

今年度は特に一人1台の端末が導入されたということで、メディアとの関わり方について「今井小SNSルール」を基に指導をしてきました。インターネットはたいへん便利なものですが、危険と隣り合わせの部分もあります。そのことを保護者も子供もまだ認識不足であると感じます。学校としては今後も継続した啓発を行っていきます。また全国学力・学習状況調査での児童質問紙の回答から、今井小の子供は、TVやゲーム、スマホなどの使用時間が全国や都の平均と比べて長い傾向があります。このことは、睡眠時間や学習時間が短くなったり、家庭内でのコミュニケーションが不足気味になったりという弊害が生まれます。子供は、自分をコントロールする力がまだまだ未熟です。子供がコントロールできないときは大人が適切にコントロールすることが必要です。「子供に我慢をさせる」ことは大人もとてもエネルギーのいることですが、子供の健やかな成長のために心を鬼にしなければならないこともあると考えます。

○ そのほかの重点項目

(1) 地域・家庭との連携（学校広報の充実）

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学校公開や授業参観が計画通り実施できませんでした。そのような状況でも、4月の「道徳授業地区公開講座」、6月の「運動会」、11月の「音楽会」では制限を加えての形でしたが、実際に子供の活動の様子を見ていただく機会を設けることができました。また、各種お便り等で、学級の様子や子供の活動の様子をお伝えしてきました。少しでも学校の様子を届けるために、今井小ホームページの校長ブログを更新してきました。さらに6年生の移動教室では、子供の様子を現地よりメールで保護者に配信しました。来年度は、感染状況が落ち着き、実際に学校に来て子供の活動を見ていただくことが計画通りできることを願っております。

(2) 教師の働き方改革（子供と関わる時間の創造）

教師が子供と元気に明るく接し、充実した教育活動を行うためには、教師の心身の健康が第一と考えています。教師の時間的余裕や心理的余裕を確保し、より子供と関わり、子供を理解し、子供に寄り添うことができるように作成文書の軽減、会議時間の精選などの取組をしてきました。しかしながら、まだまだ道半ばと考えています。今後も教師が子供との充実した時間を過ごすことができるように可能な範囲での改革を進めていきます。